

# 女子中高生夏の学校2015 ～科学・技術・人との出会い～ 参加報告

## 日本分子生物学会と 『夏学（なつがく）』

日本分子生物学会は、中高生への教育活動の取り組みとして、『夏学（なつがく）』こと「女子中高生夏の学校」（主催：国立女性教育会館／科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」採択）に、2005年のプログラム開始当初から参加しています。

『夏学』は、合宿研修を通じて、女子中高生と研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数単位で親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものです。文系・理系を問わず、科学・技術の分野に興味・関心のある女子を対象としています。また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムも設定されています。

2015年の夏学は8月6日（木）～8日（土）の2泊3日で開催され、113名の女子中高生、21名の保護者・教員が参加しました。

本学会では今年も会員から協力者を募り、実験・実習、ポスター発表、キャリア相談などを行っていただきました。

（写真提供 左上：下池貴志氏、上右・中：国立女性教育会館、下：田邊思帆里氏）



### ●実験・実習

■下池 貴志 会員(国立感染症研究所)

#### 『ウイルスを知ろうーウイルス粒子模型の作製』

正二十面体のウイルス模型を作りながら、感染の起こる仕組みや、予防するためのワクチンについてなども学びました。

ウイルス粒子から何がわかるのか？



### ●実験・実習

■横倉 隆和 会員(沖縄科学技術大学院大学)

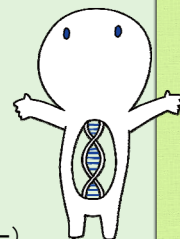
#### 『ゲームとビーズミニストラップ作りで』

##### 遺伝子発現を体験します！

この実習では、遺伝子発現についての説明ビデオ(英語)を見てもらいました。その後、「細胞の中に入って」とは説明せずに、細胞内シグナル伝達とペプチド合成について、ビニールボールを使った遊びとビーズ細工で体験してもらいました。実習後、中高生の中には「あっ、細胞の中に入ったんだね」という気づきがありました。



トランスファーRNAになってタンパク質(ストラップ)を作ろう！



ポスターと顕微鏡観察で学ぶ！

### ●ポスター・キャリア相談

■田邊 思帆里 会員(国立医薬品食品衛生研究所／ポスター)

#### 『細胞の変化と遺伝子発現やゲノム変化の組み合わせについて』

どのような遺伝子やゲノムの組み合わせが、細胞や人間の病態変化に関与するのかを説明しました。

■佐藤 綾 会員(京都大学／キャリア相談)

ポスター会場のほか、学生企画によるキャリアパスプログラム“Gate way”（研究者・技術者・大学生と中高生の出会いと交流の場）にも参加協力。

上記会員各位をはじめ、会場で分生チームとして生命科学系の幅広い進路相談にご対応くださった皆様、実験・実習のアシスタントとしてご参加くださった方々より、多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

来年の『夏学』をお手伝いしてくださる会員を募集します。詳しくは学会会報2016年2月号で！

